

- ・ 過疎化や高齢など人手不足で困っている地域に対し、県内の主要都市から労働力を提供することで関係人口の拡大を目指す。
- ・ 農作業を通して、地域の農産物の理解を深めていただく事によって地産地消の推進を狙う。

事業実施主体構成員

J A 全農福島

関連機関： J A ふくしま未来 (株) J T B

実績値 (目標値)

【目標値】労働力受入人数：20名 [延べ人数80人日] の確保。
(南相馬市では10名の不足があったため昨年度不足分10名+今年度10名の合計20名)
※作業日数20日間で人手が足りていないとご希望をいただいているため、4名×4日間×5班体制にて実施。
⇒ 【実績】参加人数21名

※その他定性目標

- ・ 県内募集により継続的な農作業労働力確保を確立する。
- ・ 継続的な取り組みにおいて作業品目の拡大を図る。
- ・ 作業面積においては、拡大となることを目標とする。

令和5年度取組み内容

今年度の取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握 (地域の状況及び労働力提供可能な者の把握等)

< JTBと連携 >

- ・ 2023年度は1月5日～2月29日の期間で南相馬市にて昨年度実施した「ごろくファーム」、新規でご依頼いただいた「林崎農園」の2件で実施。

以下、生産者へのアンケート内容の回答

〈質問内容〉JA全農×JTBの農業支援事業を実際に利用してみたの感想と現状の課題等ございましたらご回答をお願いいたします。(自由記述)

・ 林崎農園様

知り合いの農家さんからのおすすめもあり今年度から始めてサポートをしていただきました。日雇いという事を聞いて最初は不安でしたが、参加者のレベルも高くとても満足です。来年度以降も是非利用させていただければと思います。

④ごろくファーム様

通常派遣会社や自分たちで雇用をする場合、最低雇用期間などで作業がない日でも参加者にお給料をお支払いしなければいけないのだが、JTB×全農の本事業については部分的な依頼ができるので大変助かりました。

イ 産地内での労働力確保・育成

・ 労働力確保について

2023年度については福島市にて7月～10月の期間に実施した農業支援事業で応募いただいた100名の方に南相馬市内での作業のご案内し、21名の方にご参加ご参加をいただいた。

作業期間が被らない時期に参加者に別の作業をご案内することで、

- ・ 参加者の継続的な雇用
- ・ 様々な作業に伴う参加者の作業レベルの育成
- ・ 関係人口の拡大に取り組んでいる。

今年度の取組み内容

ウ 他産地・他産業との連携による労働力確保

<他産地と連携した労働力確保>

- ・労働力確保においては、JTBより過去の実績者にアプローチを行うかつ、新規集客を目的としてSNSや農業系起業と連携し、さまざまなアプローチを実施。
- ・採用前にはオンライン面接を実施し、作業の注意事項や農作業の心得を伝達。
- ・2年目の今年度については交通や宿泊部分の補助がないため、JRや飛行機などを利用した
- ・募集の際には、「バイトル」や「フルキャスト」等インターネット経由や、外部委託も併い幅広く実施。

エ 労働力等のマッチング及びデータベース化

★あらゆる手法で集客活動を実施

- ・JTBの集客方法（県外からの参加者向け JTBアグリワーケーション®）
- ①過去のJTB取扱農業系ツアーの実績者へDM
- ②JTB公式のSNSへの掲載（Twitter、Facebookへの掲載）
- ③JTB BS第四事業部内の営業マンへの周知と、担当企業へのチラシ持参セールス
- ④農業ジョブ（連携）への掲載、会員へDM発信
- ⑤農家のおしごとナビへの掲載、対象者DM発信
- ⑥その他の募集サイトへの掲載、会員へご案内 等（現地分）
- ⑦現地営業でチラシを展開

オ 農業の「働き方改革」への取組

参加者に対しアンケートを実施〈調査内容〉浜通りエリアの労働力改善に向けてどのような取り組みが必要か？(自由記述)

- ・どこも人手不足なので副業を解禁し、ワークシェアを促進していく。
- ・産・学・官・個など連携し、新たに南相馬市小高区に開校する農業学校、相馬農業高校、地元の小中学校生徒・児童への農業体験、地元食材を使用し料理コンテストなどのイベント開催。また、浜通りエリアならではの農業と漁業食材をコラボした商品開発。
- ・JTBの取組は他社ではできないので認知する活動をするべき
- ・交通費の支給
- ・浜通りに限らずですが、会社員、フリーター、無職、年金生活者が自由に参加出来るこの働き方は農業に関わらず人手不足で困っている業種(特別な資格や経験が無くても)もっと増えたら沢山の労働力改善に繋がると思います。
- ・若い世代に農業に興味を持つような広告をすると思います。

本事業取組みにおける成果項目

- ・県内での産地内連携を今年度初めて実施したが、1月5日～2月29日の期間で実施し、総勢21名の方に事業にご参加をいただきました。
- ・今年度は交通費の支給が無い状態での実施でしたが、産地内連携の場合は、県外からの移動に比べ交通費の負担が少ないことから「農業に興味を持ってる」という理由でお申込みいただいた方を中心に参加していただいた。
- ・下記参加者から取得したアンケート結果によると、
 - ・1日からでも参加できる
 - ・農業に興味があった
 - ・JTBとJAだから安心という部分で多数の回答をいただけており、実施している事業に対しての高評価をいただきました。

数ある求人の中でこのお仕事を選んだきっかけは何ですか？(複数回答可)

1日からでも参加できるから：16名
JTBとJAが募集者なので安心できるから：13名
バイトルの検索で上位表示されていたから：2名
時給が高かった：3名
農業に興味があった：19名
涼しい環境でお仕事できるから：1名
お給料のお支払いが週払いだから：5名
会社から近かった：2名
応募してからの反応が早かったから：2名
他のアルバイトでは十分にシフトが入れなかったから：1名

次年度以降の取組み内容

- ・県内の支援事業の拡大
本事業とは関係は無いが、今年度福島県ではJTBとの取組で主に実施エリア内にお住いの方中心に募集し、延べ人数4,129名の方に作業に参加していただいている。
福島市：972名
南相馬市：1,288名
会津若松市：1,869名

福島県内での産地内連携の強化のために、実施しているエリアでの事業拡大及び
福島市→南相馬市
福島市→会津若松市
いわき市→南相馬市などエリア、品目ごとに異なる収穫の時期に併せて労働者をお送りできるようなスキームを構築する。
- ・隣県との連携
山形県や宮城県など県外の他産地と連携し関係人口の拡大を狙う。
- ・参加者の育成
今年度の参加者に対し、継続的に作業をご案内していくことで、参加者の農作業に対する作業レベルの向上を促進し育成を狙う。